

R4-R8の海草地域の減災に係る 取組方針(第1期)の取組事例

取組内容

- (1)洪水に対する意識の啓発及び普及 ①情報伝達、避難計画等に関する事項
- 想定される浸水リスクの周知について
- 洪水予報・水位周知河川以外の想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表
- 中小河川の洪水浸水想定区域図の作成・公表

和歌山県

取組概要

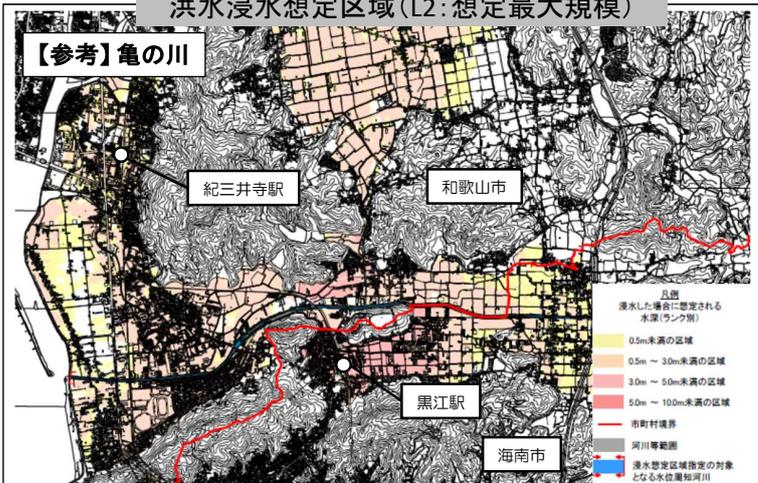
○これまで把握されていなかった、洪水予報河川及び水位周知河川区間を除く県管理河川における水害リスク情報を明らかにすることで、住民の適切な避難行動を確保する。(令和3年水防法改正)

<和歌山県管理の指定河川>

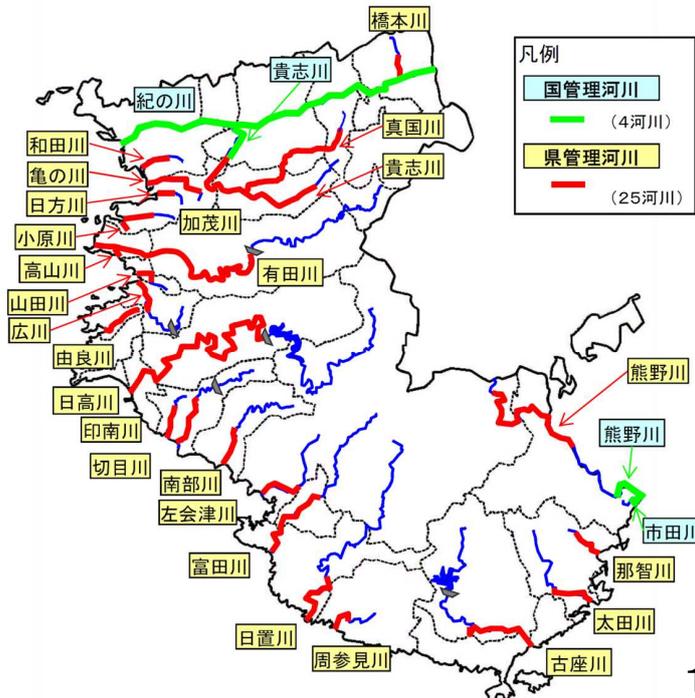
	洪水予報河川	水位周知河川	その他河川		計
			公表済	未公表	
一級河川	1	3	1	128	133
二級河川	3	14	3	297	317
計	4	17	4	425	450

現行の公表済み 25河川 令和6年3月予定

洪水浸水想定区域(L2:想定最大規模)



<洪水浸水想定区域図公表済み河川>



(3)迅速・的確な行動の備え ①情報伝達、避難計画等に関する事項
■住民等への情報伝達体制や方法について
・ウェブサイト、テレビで河川水位、カメラ映像、気象情報を提供

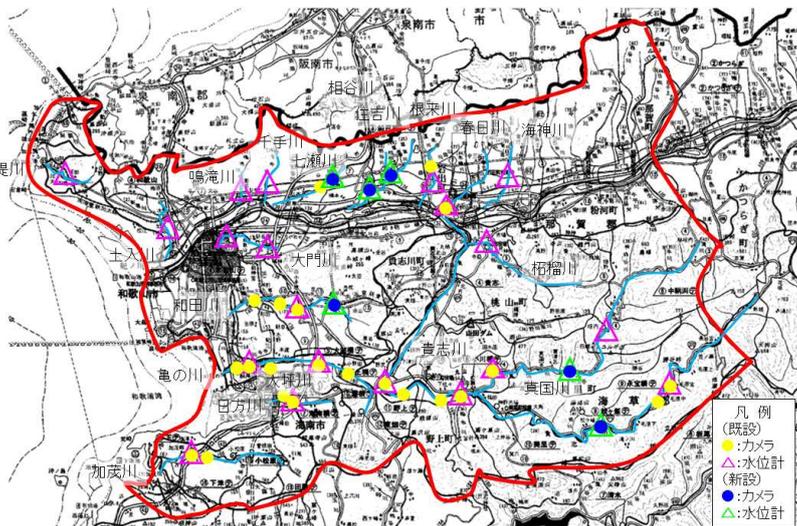
取組内容

●水位計・河川監視カメラの追加整備

●和歌山県では、R4年度に河川監視カメラを1箇所を設置。

取組概要

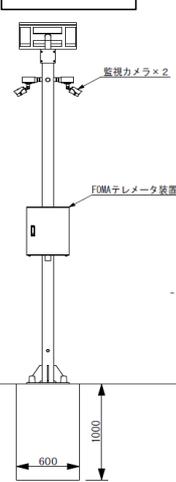
- ・R4年度に設置した水位計・河川監視カメラ
- 和田川（和歌山市） 1箇所
- 七瀬川（和歌山市） 1箇所



設置した河川監視カメラ

河川監視カメラ画像

カメラ標準図



和田川 伊太祈曾



七瀬川 新かみそり橋

カメラ詳細図



(3)迅速・的確な行動の備え ①情報伝達、避難計画等に関する事項
■住民等への情報伝達体制や方法について
・ウェブサイト、テレビで河川水位、カメラ映像、気象情報を提供

取組内容

●県ホームページで、河川の水位、カメラ映像を提供

ホームページの改修

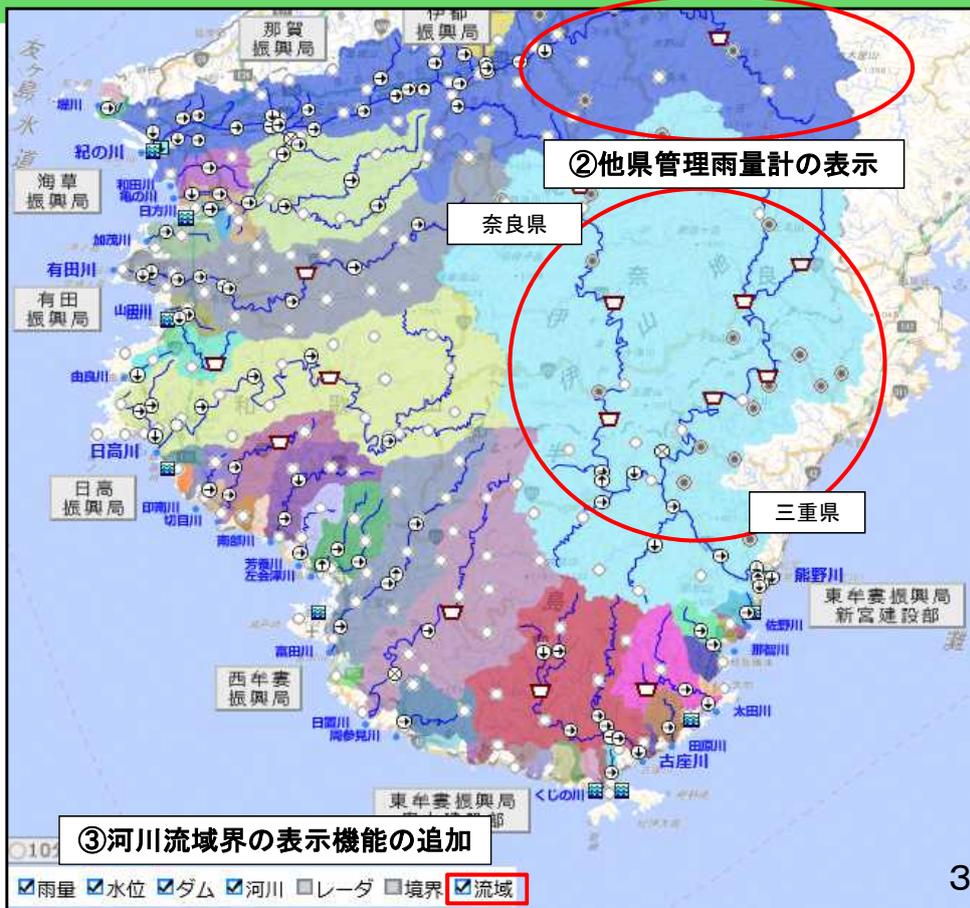
【改修内容】

- ①河川監視カメラ及び水位計の増設
河川監視カメラ 112箇所 (R5:5箇所増設予定)
水位計 102箇所 (R5:2箇所増設予定)
- ②他県管理雨量計の表示
紀の川の上流域 (奈良県:20箇所)
熊野川及び北山川の上流域 (奈良県:12箇所、三重県:9箇所)
- ③河川流域図の表示機能の追加
- ④国土交通省 河川監視カメラ映像の表示 (R3年4月～)
- ⑤和歌山県 河川監視カメラ映像の表示 (YouTube配信) (R4年10月～)

⑤和歌山県 河川監視カメラ映像の表示 (YouTube配信)



羽鳥橋水位観測所（亀の川）
和歌山県 海草振興局管内 河川映像



②他県管理雨量計の表示

③河川流域界の表示機能の追加

取組内容

- (1)洪水に対する意識の啓発及び普及 ① 情報伝達、避難計画等に関する事項
- 避難場所・避難経路について
- ・分かり易く、利活用されるハザードマップの作成、周知に向けた検討

- 住民に分かりやすく利活用されるハザードマップの作成

取組概要

和歌山市防災マップについて、次の内容を主な点として見直しを図り、住民等への配布や出前講座等での周知を通じて、避難意識の向上を図ることができるよう取り組んでいます。

- 地域ごとの洪水浸水想定を掲載した総合的な防災マップの作成
- 警戒レベルや浸水の深さに応じた避難行動における判断フローなどの情報を掲載
- 情報アクセシビリティの向上のために音声コード（Uni-Voice）を掲載

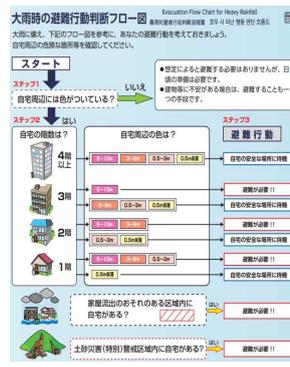


和歌山市防災マップ（令和5年3月作成）

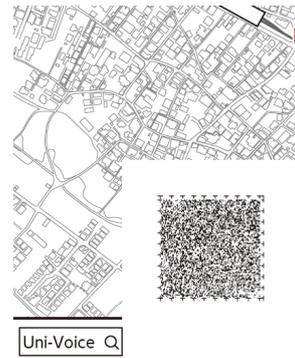
見直しの
主なポイント



洪水浸水想定（地区詳細版）



避難行動における判断フロー



音声コード（Uni-Voice）

津波や洪水による浸水想定、土砂災害（特別）警戒区域の情報など、災害リスクが一目で分かる総合的な防災マップとして見直しを図り、また、警戒レベルや避難行動における判断フローを防災マップ内に掲載し、適切な避難行動を促す。

取組内容

- (1)洪水に対する意識の啓発及び普及 ① 情報伝達、避難計画等に関する事項
- 防災に関する啓発活動について
- ・小中学校と連携した防災教育の実施

- 「ワークショップ—中学生と地域住民でくらしをみつめる—」の実施

取組概要

○中学生と地域住民が、地域の危険個所の共有や、タイムラインの作成を通じて自分たちに何ができるかを話し合うことで、将来に向けた地域連携の促進や新たな担い手の育成、地域防災力の強化を図る。

【研修会の実施（R5.5.30）】

①講座



災害への備えについての説明

②地域資源の共有



地域の大切なもの、美しい景色等を共有

③地域のリスクの共有



浸水や土砂災害等のリスクを共有

④情報入手手段やタイムラインによる行動の話し合い



・警戒レベル毎の情報入手方法を確認
・タイムラインの作成

発表



中学生が発表し、内容を共有

グラフィックレコーディング



「対話の見える化」に対する取り組み
記憶にも記録にも残る研修会になりました